

令和2年度 第1回男女共同参画推進委員会 議事録

日時	書面開催 【審議期間】令和3年1月15日（金）から1月29日（金）まで
会場	書面開催
出席	足立、岩渕、成田、野中、田中、佐藤、加藤、池上、金丸、坂口、各委員事務局（倉石室長、津田係長、鈴木主査、原田主事）
資料	資料1 審議会等の女性員の登用状況集計表 資料2 蕨市DV防止基本計画（第3次）案について

議題

(1) 審議会等の女性委員の登用状況について

【委員意見】

(委員) 各審議会等の委員には専門的に学び、経験がある分野に関係するものになることが多いと思う。したがって審議会によっては、女性が少なくなってしまうのも仕方がない。

蕨市は全体として目標の40%を達成できていることは素晴らしい。現在、職業選択であまり性別を意識しなくなっていることから、将来的には目標数値を上げて良いのではないかと感じている。

(委員) 令和2年度の女性委員登用率が、2.2ポイント上がったことは、男女共同参画推進委員会に、関心を持ってきたとの現れだと思います。

今後も、目標の令和5年度まで40%に向かって、委員の皆さんと努力していきたいと思います。

蕨市町会連合協議会は37町会ある中で、令和2年度では2名女性町会長が在籍しています。町連としては女性の町会長に出来るだけ多く在籍して頂き、地域活動を男性中心の体制で行ってきたが、女性の視点やニーズを取り入れ、防災・高齢者・子育て支援等で男性にはない目線で発揮出来る体制作りに期待したい。

町連の目標としては、37町会に女性副会長が1人以上在籍し、蕨市主催懇談会・講習会・総会など参加していただけるよう、各町会長に働きかけ、女性は裏方の仕事から表舞台で活躍できるよう、委員の方にも協力をお願い致します。市長にも協力を依頼してあります。

(委員) 女性委員の登用率が増えていることは、良い事です。何よりも、女性のない審議会がない事が良いです。ただ、敢えて言わせて頂けたら、一人の女性が、いくつもの審議会を兼任するのは、避けて欲しいです。(現状は分かりませんが)

審議会や委員会に任期を定めて（再任は無制限でなく）欲しいです。
多くの新しい女性を登用して欲しいです。
やる人がいないのではなく、育てて欲しいです。

（委員） 「パートナーシップ条例」制定18年を迎え、女性登用の向上に向けて積極的に推進され、更に、目標に向けて取り組まれるよう期待いたします。

（委員） 蕨市パートナーシッププランにより、「令和5年度までに40%を目標としている」点は評価しますが、さらに世界の先進国では「パリテ」（50%）を目指す状況です。ぜひ具体的な推進策を進めて欲しいと考えます。

（委員） 登用率42.1%は良好な数値ですし、すべての審議会に女性が含まれる結果となったことは、大きな前進だと感じます。一方、審議会によって大きな差がある点は、男女共同参画の道半ばということを表していると思います。

（委員） 審議会等の女性委員の登用率は毎年上昇しており、蕨市男女共同参画パートナーシッププランにおける、令和5年度までの女性委員の割合目標である「40%」を超える「42.1%」をすでに達成していらっしゃいます。また、すべての審議会等に女性委員が含まれるという、喜ばしい結果も出ているようです。

全体的な数字では目標達成という結果が出ているので、残る2年で登用率が低い審議会の女性委員比率の向上が図られるよう取り組んで頂くとともに、女性比率が極端に高い審議会等の男性委員登用を進め、男女比のバランスがとれた審議会等になることを願います。

（2）蕨市DV防止基本計画（第3次）案について

【委員意見】

（委員） 基本目標1について

小さい時からの教育が最も効果的で、学校で学習する機会を作ることが必要だ。教育改革で教えることが増え、現場が忙しいのは理解しているが、ぜひやってもらいたい。

デートDVについての意識調査を読んで・・・知っていたのは3割程度、様々な経験をする前に知識としてあると、加害者にも被害者にもなることを防げるのではないか。中学生への学習機会（講演会等）はなくさないで欲しい。デートDVは配偶者間の暴力につながるものと考えてるので。

基本目標2について

1, 早期発見のための通報の周知で「本人の意思を尊重したうえで」が児童虐待と違うところで、周囲（近隣住民）がDVに気づいて、通報したいのにどうしたらよいか、計画案では明確にわからない。

（委員） 計画案について、今後、推進委員会で審議しながら、DV防止に努めてい

きたい。

(委員) 新型コロナ禍の影響で、昨年4月より11月の時点で相談件数が13万件を超え過去最多となり「殴ったり、蹴ったり、髪を引っ張ったり」する身体的暴力や、精神的暴力が増加。調査結果からDVは知っていたが57.6%とあり、その先法律があることを知っているが内容はほとんど知らない方は55.7%で、このことから相談窓口を知らないが42.3%とある様に支援の在り方の検討を願いたい。

(委員) 施策1の(2)「要保護児童対策地域協議会」による連携強化に関して大変重要な進展だと考えます。小学校教員として現場にいた経験から「子どもの異変」に気づき連携を取れる関係機関の大切さを実感しています。今後一層の充実を望みます。

デートDV防止啓発授業について

蕨市では中学校で協働事業として3年間「デートDV防止啓発授業」を実施し、終了しましたが残念でなりません。令和2年7月に蕨市中学校でアンケートが行われたことは評価しますが、「知っている」と答えたのが25.2%という実態は大きな課題だと思います。

本推進委員会からの働きかけで、継続的な「デートDV防止啓発授業」を実施するように働きかける方法はないでしょうか。

(委員) 基本目標1 DV防止のための教育及び意識啓発「現状と課題」について、男女別の実態を示した方がわかりやすいと思います。

(委員) 子どもの異変から家庭内の状況が見えてくることも多いため、要対協による連携の強化が加わったのは良いと思います。ただし、子どものいる学校と要対協がうまくつながっていないと感じます。

市民への調査で自由意見のところに様々な意見が記入されており、市民の関心や思い願いは強いものがあるのだと思いました。DV未然防止へとつながれると良いです。

中学生のアンケートは質問項目が変更されたようで良かったです。デートDVの認知率の低いのに少々驚きました。だから早くから学習をした方が良いともいえるでしょうか。男女交際については個人的な体験の差が大きく、学習やアンケートのタイミングもいつがより適切なのか難しいところがあると思います。デートDV学習の基盤として学校における人権教育の重要性を改めて感じます。

ハンドブックを中1に配布し、早くから知ってもらうのが良いとも思いますが、一方で交際をしていない自分は遅れている？などと焦りや不安を持つことのないよう配慮や適切な指導が必要だと思います。

(委員) きめ細かく、具体的に必要と思われる対策や、課題がまとめられていて素

晴らしく感じます。それを踏まえて、質問と提案をさせていただきます。

小中学校授業での取り組み強化のお願い

アンケートによるとデートDVを知らない中学生が約7割います。残念ですし不安に思います。数年前にデートDVの協働提案事業が行われていた時期のデートDV認知率が分れば、現在との差異を教えてください。また、認知率は学校との連携で90%以上にできると思います。DVや貧困は親子で連鎖し、育った環境（教育）に左右されることは、すでに明らかになっています。DVの早期発見と同じく、「予防」がとても大切です。将来DVの被害者にも加害者にもならないよう、学校の特別授業として下記を教える必要性を強く感じます。「デートDVについて、人権教育、性被害、性教育、命の教育、アンガーマネジメント、もし自分や友達が被害にあった時の対処方法（市の相談窓口の案内や、LINE相談などを行うNPO団体のパンフレットなどを渡す）、男女共同参画のこの数十年での改善状況（生涯年収や家事分担、キャリアパスの差など）など」

基本目標1施策1（4）について、現状は小中学校の間で、具体的に合計何時間の授業があるのか？どのような内容か教えてほしい。例えば、毎年3時間の授業があるだけで、未来のDV・性被害者を減らせる可能性が高まると感じます。もし現実に被害にあっている子がいれば、授業を受けることで相談するきっかけにもつながります。何かの授業に絡めてとか、教師への研修の一部などでは足りないと感じます。特別授業の時間確保が難しいとは聞きますが、デートDV認知率改善について教育委員会と連携し、計画や目標値を立ててほしいと思います。可能であれば、委員会で教育委員会との意見交換を希望します。また、上記教育はDVにとどまらず、良好な人間関係を築き、人生設計に関わるスキルであり、すべての児童に必要なと感じます。先進自治体も参考に、蕨市でも国に先駆けて行っていただきたいです。加えて、アウトメディアに関しては、小学校の長期休暇時に子どもが目標を立て、家族でチェックし、話し合う宿題が出ます。蕨市独自の素晴らしい取り組みだと感じます。DVに関しても似たように行うことで、家族間での話し合いや認知が促進されるかと思います。

（委員） 計画案は、計画の体系、施策の展開、計画の推進いずれにおいても、特に修正が必要な箇所は見られませんでした。

ただ、昨年来、新型コロナウイルスに起因する在宅勤務等による在宅時間の増加、生活不安等によるストレスなどによりDVの相談数が国内全体でかなり増加、深刻化するなどの社会的変化が見られるため、基本目標の中の「現状と課題」において、その件に少し触れる部分があってもいいのではないかと思います。